

平成25年度 事務事業マネジメントシート

事業名	訪問看護ステーション運営事業			会計	款	項目	大	小
政策	O4	4節 誰もが充実した生涯をおくることのできる流山（市民福祉の充実）	主管課	介護支援課				
施策	4-2	高齢者や障害者がいきいき暮らせる社会づくり	主管課長	早川 仁				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	在宅で療養中の訪問看護を必要とする市民	意図	病状の悪化を防ぎ在宅療養が継続できる
事業内容	市直営の訪問看護サービス事業所として設置。主治医の指示のもと看護師が訪問し、病状の観察、服薬管理、床ずれの手当てなど、個々の病状に応じた看護サービスを提供している。訪問看護の対価として、診療報酬や利用料の支払いを受けている。			
事業開始から現在までの状況変化	当初は、寝たきり高齢者に対する訪問看護が主であったが、療養病床の削減や入院日数の削減等により、難病等で人工呼吸器を装着していたり、がん末期などの重症者の訪問看護や精神疾患の患者の訪問看護が増加。対象者の増加に伴い利用者の依頼も増加傾向にある。市内の民間訪問看護ステーションが平成25年度3か所増加し8か所となった。今後は地域包括ケアシステムのさらなる構築のため市内訪問看護ステーション間の連携はもとより、医療と介護の連携強化が課題となっている。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
		①	訪問日数	244	252	248	
②	年間利用者実人数	60	72	62	人	↑↑↑	
③	年間利用者延件数	2,247	2,439	2,309	件	↑↑↑	
④							
指標で表すことができない定性的な成果	認知症や精神疾患等、また、世帯全体の判断力や介護力の低下がみられる等で、対応や調整が困難なケースにも積極的に対応している。			目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）			
事務事業のコスト	平成23年度	平成24年度	平成25年度	年間利用者実人数、延人数ともに減少。人工呼吸器装着等、医療依存度の高い利用者が増加。複数名での訪問が必要であったり、訪問頻度が高く、実人数は増加できなかった。また、緊急入院や長期の入院等が多かったことも、件数減の理由の一つと考える。一方、世帯全体で判断力や介護力の低下がある等、対応困難で多職種との調整に時間を要する利用者にも積極的に対応してきた。今後は医療と介護の連携強化が必須であり、在宅医療連携拠点事業の実施の方向性と協働し、市直営訪問看護ステーションとしての基幹的役割を果たしていく必要がある。			
事務事業の総コスト(a=b+c)	37,976,977	36,900,241	37,150,455				
事業費(b)(円)	9,106,977	9,224,241	10,047,455				
うち一般財源			8,999,655				
職員給与費(c)(円)	28,870,000	27,676,000	27,103,000				
人役・職員(人)	3.00	3.00	3.00				
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)	4.00	4.00	4.00				
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた	
		市関与の必要性	B 市が担うとともに、市民協働を進めるべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である	
総合評価		I 拡 充 （事業を拡大して継続すべき）					
		コストの削減					A 削減の余地はない

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H25)の改善計画	認知症や精神疾患患者等、世帯全体の介護力や判断力低下のあるケースも多く、医療と介護の多職種連携の必要なケースにもさらに積極的に対応していく。	③取り組みの課題	多様化する医療の需要に対応できるよう研修等の機会を確保しさらなるスキルアップを図ること。確実な情報共有と多職種連携の強化を図ること。
②今年度(H25)に実施した取り組み	利用者受け持ち制を複数名でのローテーション対応に変更し、定着できた。また、介護と医療の多職種連携、調整の必要なケースにも積極的に対応した。	④今後の改善計画	研修等によりスキルアップを図り様々なケースに対応可能とする。利用者の情報共有、適切な看護サービス提供のため多職種カンファレンスへの積極的参加。